The Academy of Pharmaceutical Science and Technology, Japan

日本薬剤学会（APSTJ）ニュース

7

日本薬剤学会英語セミナーの活動について

Activity of APSTJ Global Education Seminar

千葉大学大学院薬学研究院
森部久仁一
KUNIKAZU MORIBE
Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University

▲東地区第３回英語セミナー質疑応答の様子

１．日本薬剤学会英語セミナーとは

日本薬剤学会英語セミナー（APSTJ Global Education Seminar）は，薬剤学分野の若手の研究者を対象としてセミナーを開催し，英語で発表・討論する機会をもつことで，参加者の英語力の向上，英語で討論することに対するコンプレックスの解消，国際的な視野をもった若手研究者の育成を目的としたものである。

英語セミナーは，当時の日本薬剤学会会長であった東京大学薬学部の杉山雄一先生の提唱により2002年度より開催されており，今年で６年目を迎える。東地区と西地区にわけて行われてきた英語セミナーは，東地区では共立薬科大学の中島恵美先生が，西地区では神戸薬科大学の平井みどり先生がそれぞれ初代委員長として本セミナーの礎を築かれ，2004～2005年度は，星薬科大学の森下真莉子先生と京都薬科大学の藤田卓也先生が本セミナーの内容の充実にご尽力されてきた。2006年４月より，東地区は筆者が，西地区は摂南大学の佐久間信至先生が委員長となり，セミナーを企画・実行しているところである。

２．英語セミナーの活動内容

英語セミナーでは通常，学会などに参加されるために来日された先生をお迎えし，特別講演を行ってもらっている。さらに日本人の演者数人にも英語での発表をお願いしている。発表時間は特別講師の先生で40～50分，日本人演者で15～20分程度，質問時間も20～25分程度である。特に質問時間については，参加者にDiscussionに参加してもらえるように多めにとっているのが特徴である。質問が続く限り質疑応答時間は延長するので，演者にとってはよい訓練になる。

英語セミナーは，東西ともに年に２，３回開催されている。開催時期は外国人演者の先生次第ということもあり不定期である。参考までに2006年度に東西で開催された英語セミナーの演者一覧を**表１**に示した。2006年度は年度の前半に集中しているが，これも学会の開催時期などに依存することが多い。英語セミナーの運営は東西委員長をはじめ，委員の先生方（2007年度の委員は**表２**を

日本薬剤学会英語セミナーの活動について

表1　2006年度に開催されたAPSTJ GEセミナーおよびスピーカー

APSTJ GE Seminar East 06-1	APSTJ GE Seminar East 06-2	APSTJ GE Seminar East 06-3
April 10, 2006	July 18, 2006	September 29, 2006
Plenary lecture	*Plenary lecture*	*Plenary lecture*
Kenneth Thummel University of Washington	Adam Watkinson ACRUX LIMITED	Jan Vertommen CAPSUGEL
Guest Speakers	*Guest Speakers*	*Guest Speakers*
Kaoru Kobayashi Chiba University	Hiroaki Todo Josai University	Kunikazu Moribe Chiba University
Ryo Suzuki Teikyo University	Toyofumi Suzuki Nihon University	Takehiko Yasuji Astellas Pharma Inc.
Kousei Ito University of Tokyo Hospital	Yoichi Negishi Tokyo University of Pharmacy and Life Science	Hideo Ueda Josai University
APSTJ GE Seminar West 06-1	**APSTJ GE Seminar West 06-2**	**APSTJ GE Seminar West 06-3**
May 22, 2006	June 20, 2006	November 28, 2006
Session 1	*Session 1*	*Session 1*
Shinji Sakuma Setsunan University	Tatsuhiro Ishida The University of Tokushima	Toshiyuki Kida Osaka University
Yoshimasa Kobayashi Daiichi Pharm. Co., Ltd.	Lin Yulian Kyoto Univ. of Pharm. Sci.	Hiroshi Mizuuchi Tanabe Seiyaku Co., Ltd.
Session 2 (Invited Speaker)	Atsushi Harada Osaka Prefecture Univ.	Barichello Jose Mario The University of Tokushima
Gordon Amidon University of Michigan	*Session 2 (Invited Speaker)*	*Session 2 (Invited Speaker)*
	Michael Katz University of Arizona	Jindřich Kopeček University of Utah

表2　APSTJ GEセミナー2007年度委員

東地区委員		西地区委員	
氏名	所属	氏名	所属
森部久仁一	千葉大学大学院薬学研究院	佐久間信至	摂南大学 薬学部
伊藤清美	星薬科大学	西川元也	京都大学大学院 薬学研究科
上田秀雄	城西大学 薬学部	大河原賢一	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科薬学系
尾関哲也	東京薬科大学 薬学部	石田竜弘	徳島大学大学院 薬学研究科
設楽悦久	千葉大学大学院 薬学研究院	山本浩充	愛知学院大学 薬学部
鈴木　亮	帝京大学 薬学部	岩永一範	大阪薬科大学 薬学部
出口恒夫	三共株式会社 薬剤動態研究所	岸本修一	神戸学院大学 薬学部
永井尚美	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	松村直哉	小野薬品工業株式会社 医化学研究所 創薬技術室
中村宏司	テルモ株式会社 研究開発センター	森田孝広	田辺製薬株式会社 CMC研究所製剤研究部
前田和哉	東京大学大学院 薬学系研究科	高木敏英	大日本住友製薬株式会社 探索薬物動態研究グループ
		藤田卓也	立命館大学 薬学部

▲東地区第3回英語セミナー参加者

参照)の協力により成り立っている。セミナーの内容は，特別講師の先生に合わせたテーマが中心となるが，他分野の参加者にもわかるような発表をしていただくよう演者の先生にお願いしている。学会等では，自分の専門分野の発表しか聞かない，あるいは聞けないのが通常であるが，ふだん参加できない分野の研究発表を聞くのもいい刺激になる。同じ薬剤学の分野でもこんなに異なる研究をしているのか(そしてこれほど英語が理解できないのか…)ということを実感するはずである。

表 3　APSTJ Global Education Seminar 2007

Academy of Pharmaceutical Science and Technology, Japan September 14, 2007（10：30-18：30）at Lecture Hall（Pharmaceutical Science Research Building, 2F），Graduate School of Pharmaceutical Sciences, the University of Tokyo

Opening remarks（10min）
10：30-10：40 Mariko Morishita

Plenary lecture 1（40min presentation＋20min discussion）
10：40-11：40（Chairperson：S. Yamashita, Setsunan University）
Keith Hutchison
Vice President R&D, Capsugel division of Pfizer
Case studies on development of liquid-filled capsule formulations

Guest Speaker 1（20min presentation＋20min discussion）
11：40-12：20（Chairperson：K. Maeda, the University of Tokyo）
Yukio Kato
Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa University
Role of SLC transporters and their adaptor proteins in intestinal drug absorption

Lunch Break

Guest Speaker 2（20min presentation＋20min discussion）
13：30-14：10（Chairperson：T. Ishida, Tokushima University）
Takashi Okura
School of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University
Blood-brain barrier transport of cationic drugs

Guest Speaker 3（20min presentation＋20min discussion）
14：10-14：50（Chairperson： T. Ozeki, Tokyo University of Pharmacy and Life Science）
Ken-ichi Ogawara
Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University
Determinants to be taken into considerations for optimization of nanoparticulate drug carriers

Guest Speaker 4（20min presentation＋20min discussion）
14：50-15：30（Chairperson： M. Nishikawa, Kyoto University）
Yoshinori Onuki
Faculty of Pharmaceutical Sciences, Hoshi University
Formulation optimization of photocrosslinked polyacrylic acid hydrogel as an adhesive for dermatological patches

Break

Plenary lecture 2（40min presentation＋20min discussion）
15：40-16：40（Chairperson： K. Moribe, Chiba University）
Hans Lenneräs
Uppsala University
Gastrointestinal drug absorption： experiences from *in vivo* dissolution and permeability studies in humans

Closing remarks（10min）
16：40-16：50 Shinji Sakuma

Reception at Sanjo Kaikan（17：00-18：30）

Supported by APSTJ and Capsugel Japan Inc.

3．英語セミナーに参加するには

英語セミナーは日本薬剤学会の会員を中心に名簿に登録されているメンバーに案内を配信して活動を行っている。最近では日本薬剤学会のホームページなどにもプログラムを掲載しているので興味がある方，英語を鍛えたいと思う方はぜひとも参加していただきたい（連絡先：moribe@p.chiba-u.ac.jp）。積極的にセミナーに参加し，質疑応答や演者との歓談を英語で行うことにより英語で話すことに対する不安が徐々になくなっていくはずである。

若手研究者は，大学・企業を問わずなるべく早いうちに英語を聞き話す機会を持ち，英語で話すことに対するコンプレックスを解消することが重要である。国際学会へ年１回程度参加するだけで英語が身につくわけではないし，そういう場に出るとどうしても物おじしてしまう。日本人同士で英語を話そうとしても気が引けてしまうので，英語セミナーのような英語で話さなければならない機会がないと本腰を入れて取り組めないものである。

本セミナーは，英語での発表・討論に積極的に参加していただける方なら学位や年齢は問わない。「英語を聞き話す機会を持つ」という趣旨のセミナーであるため，専門分野に限らず，ぜひ気軽に参加いただきたい。

4．2007年度の活動予定

2007年度の英語セミナーに関しては，西地区では第１回のセミナーを６月19日に，第２回のセミナーを７月24日に，東地区では第１回のセミナーを７月17日にそれぞれ開催した。また，本稿が掲載されたあとの９月14日には，西地区・東地区合同でのセミナーを東京大学にて開催する予定である。プログラムを**表 3** に示すので参加を希望される方は前述の連絡先まで連絡いただきたい。